

大学等名 滋賀医科大学

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制（委員会・組織等）

教学活動評価委員会	
（責任者名）	一杉 正仁
（役職名）	教学活動評価委員会委員長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	本学では、教育推進本部、医学・看護学教育センター、教学活動評価委員会を設置して教学のPDCAを確実に推進する体制を整備しており、これらの組織を中心に自己点検・評価による教育の継続的改善を行っている。本プログラムの自己点検・評価は、教学のPDCAのCheck機能を担う教学活動評価委員会が行う。本教育プログラムを構成するすべての授業科目が学年進級判定の対象となる必修科目であるため、全ての学生が履修することになるが、履修者数・修了者数は、自己点検・評価のチェック項目に含め、継続的に把握を行っていく。
学修成果	各授業科目の成績評価については、学修目標に応じて学生の学修成果を測るための成績評価の方法を講義概要（シラバス）に記載しており、秀・優・良・可・不可の5段階で評価を行う。また、学生は毎年アウトカム（学修成果）の到達度に関する自己評価を行うこととなっており、2023年度には本プログラムの内容も鑑みて、医学部医学科及び看護学科のアウトカムに「情報・科学技術の活用」の項目を加え、学生が当項目に関する自己評価を行っている（現在は医学科のみで実施）。教学活動評価委員会ではIR室が分析したこれらの成績評価、学生の自己評価の結果に基づき、本プログラムの学修成果の評価を実施し、プログラムの改善に繋げる。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	本教育プログラムを構成する授業科目を含めて全ての科目において授業科目評価を実施しており、学修目標の達成度、授業満足度、授業の内容・方法の適切性、学生自身の取り組み状況に関する評価項目により、多面的に理解度等を把握している。さらにその結果を各授業科目担当教員へフィードバックし、教員自らが教育方法の見直しや改善を行うことにより、学生の内容の理解度の向上に努めている。なお、本プログラムの該当科目の結果については、数理・データサイエンス・AI教育検討専門委員会から教学活動評価委員会へ報告し、自己点検・評価に活用する。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	医学部医学科及び看護学科の最高学年学生（医学科第6学年、看護学科第4学年）を対象に実施しているアンケートにおいて、本プログラムの後輩等他の学生への推奨度を確認するための評価項目の設定を検討する。なお、調査結果については、教学活動評価委員会がIR室が分析した結果に基づき評価を実施し、数理・データサイエンス・AI教育検討専門委員会へフィードバックを行い、プログラムの改善に繋げる。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	本学では、教育推進本部、医学・看護学教育センター、教学活動評価委員会を設置して教学のPDCAを確実に推進する体制を整備しており、これらの組織を中心に自己点検・評価による教育の継続的改善を行っている。本プログラムの自己点検・評価は、教学のPDCAのCheck機能を担う教学活動評価委員会が行う。本教育プログラムを構成するすべての授業科目が学年進級判定の対象となる必修科目であるため、全ての学生が履修することになるが、履修者数・修了者数は、自己点検・評価のチェック項目に含め、継続的に把握を行っていく。

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点		
	教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	本学は、医学科および看護学科からなる医学部のみを有する医科大学であるため、卒業生の多くは医師、看護師、助産師、保健師として病院や地域の医療現場などで専門職として従事する。現在、卒業生調査を実施しており、本教育プログラムを修了した卒業生の進路先や活躍状況の把握に努めている。また、卒業生が勤務している病院、診療所等の医療機関に対して卒業生に関するアンケート調査を行っており、卒業生に対する客観的評価を行う仕組みを設けている。その調査結果に基づき本教育プログラムの更なる改善に結びつける。
	産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	本学のカリキュラム、授業科目の配置、授業内容などは、医学・看護学教育センター学部教育部門医学科カリキュラム専門委員会及び看護学科カリキュラム専門委員会において検討を行っている。医学科カリキュラム専門委員会の委員に学生に加えて大津市医師会会長を含み、医療現場の視点からの教育プログラムの内容・手法等への意見を求めている。また、教学活動評価委員会には、滋賀県健康医療福祉部職員及び他大学の教育専門家を含み、プログラムの評価に関して意見を求めている。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること		本学卒業生の多くは医学・医療に係わるため、本教育プログラムを構成する授業科目においては、演習・実習等の様々の学習形態・方法を通じて医学・医療に係わるデータサイエンスやAIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を伝えている。なお、その修得度については、授業科目評価や各種アンケートの満足度等の調査を通じて確認し、数理・データサイエンス・AI教育検討専門委員会が中心となって、今後更に学生の理解の向上のための取り組みを推進する。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載		医学・看護学教育センターでは、本教育プログラムを構成する授業科目を含めて全ての授業科目について授業科目評価を行っている。学生からの意見は授業科目担当教員へフィードバックしており、それにより、「分かりやすい」授業や方法の改善につながる仕組みを構築している。